

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」
第 1 回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	特定非営利活動法人関西 NGO 協議会		
事 業 名 称	子どもの権利条約を掲げ SDGs 達成を目指すユースリーダー育成とユースアクションプラットフォームの構築～ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 開催に向けて～	助成額	50 万円
申請事業の概要	SDGs を推進する上で重要な役割を持つ「ユース世代」が、国際協力や SDGs を推進するユースリーダーとなり、阪神地域の課題や世界的な課題を解決するための実践的な活動を通して、アクションプラットフォームをつくる。		
申請事業の目的	SDGs 達成のために、1.ユースリーダーの育成、2.ユースアクションプラットフォームの構築を目的とする。国内最大規模の国際協力普及啓発事業「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」(以下、ワンフェスユース)を、2014 年から継続して開催してきた。高校生が、開発教育の視点から SDGs を理解し、「開発・人権・環境・平和」などの地域、世界の諸問題について問い、考え、失敗を恐れず挑戦することを通じて、社会課題の本質を見極め行動していく次世代リーダーを育成し、社会に輩出をすることを目的とする。		
関連する SDGs 目標	 <p>主に SDG4「教育」の中のグローバルシチズンシップエデュケーションと、あらゆるステークホルダーと共に新しい価値を提案する SDG17 パートナシップが関連する。また、ユース世代は、世界を持続可能な状態に変革していくための SDGs 達成のための重要な担い手とされており、対等性・立場による平等性を保つことや、公正な参加の機会をつくることは、SDG10、SDG16 に関連する。また、ワンフェスユースでは、海洋プラスチック問題やジェンダー不平等による教育への影響と貧困課題をテーマとした。自ら問いを立て、考え、行動する機会を提供した。</p>		

2. 助成事業の実績・成果等について

<p>子どもの権利を尊重した事業運営をするために、初動に時間を要した。当初は、11 月 20 日の「世界こどもの日」に向け子供の権利の普及啓発キャンペーンを実施する計画であったが、12 月 10 日「世界人権デー」までをキャンペーン期間とすることで、キャンペーン目標の達成のための活動ができた。キャンペーンの目標は、1 参加する個人 130 名、企業・団体 5 団体、2 キャンペーンを通じた個人の寄付および、企業・団体の協賛:50 万円であったが、1、2 ともに達成した。個人の賛同者は 135 名・企業・団体は 7 団体となり、共感の輪を広げ、社会を動かす声をつくった。クラウドファンディングの実績は 1,075,488 円、75 名(但し、手渡しの寄付がカウントされない)という結果であった。また、事業の前後に行なった高校生の意識調査の結果は、「子どもの権利について聞いたことがありますか」によくてはまる、あてはまると回答した高校生が「81%」から「100%」となった。また、「子どもの権利条約について内容を理解していますか」は「50%」から「87%」に上昇した。さらに、「自分で国や社会を変えることができますか」とは「56%」から「75%」に上昇した。</p> <p>日本国内においては、学習指導要領などで SDGs が取り上げられ、2021 年 4 月の電通発表の調査によると、10 代男性の認知度 75.9% (前年 55.1%)、10 代女性の認知度は、72.2%(前年 32.1%)と、世代別に見ても、10 代での認知度が著しく高い。さらに、SDGs について、「自分で何かを行うことに抵抗がない」と回答した 10 代は 77.9%となり、全年代で一番高い結果となっている。そこからいえることは、認知も高まり、行動をしようとしている 10 代が多く存在する中で、実践的な活動への接点を構築し、ユース世代へのさらなる意識啓発と活動への参画機会を増やすためのプラットフォームの形成が、SDGs 達成に大きく寄与し、事業後も継続的に市民活動に参加する高校生の申し出もあり、子どもの権利を普及啓発するユースリーダーの育成とユースアクションプラットフォームの土台ができた。</p> <p>高校生の感想には「私たちにできることは少ないかもしれませんが、という先入観こそ捨てるべきではないかと気づいた。今は、</p>

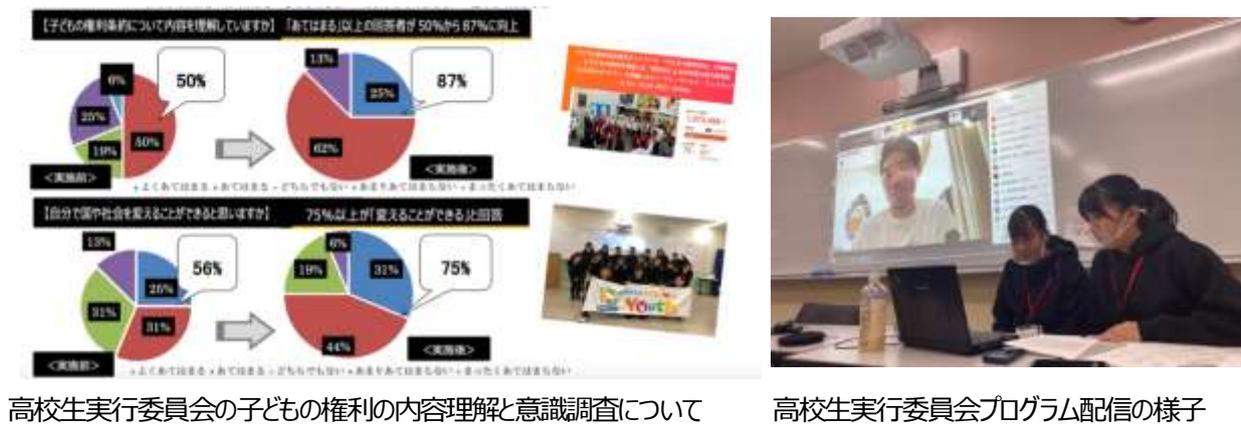
私たちが十分社会を変えることは可能だと考えている。」「今回の活動を通して私たちが変えようとしている原動力を活かそうとしてくださる環境があることに感謝し、それを通してより輪が広がっていったことを実感した。」「多くの人に知ってもらえると徐々に社会に影響力を持ち始めるのではないかと思った。何も始めないことには始まらないのだと今回強く実感した。」などが寄せられた。今後は、継続的な賛同者や寄付者と、活動する若い世代とあらゆる形で一緒に活動する発展が重要となる。

こうした気づきや刺激を経て、士気が高まった高校生たちがワンフェスユースというアクションプラットフォームの舞台で質の高い話題を提供することにより、高い刺激を与え合う相乗効果のある関係性が深まった。何よりも、ワンフェスユースをスタートラインとし、終了後も課題解決や誰一人取り残さないための活動を続けるユースリーダーが育ったことが最大の成果である。本事業を経験したことをきっかけに、今後の活躍が期待できる。

3. 課題分析や今後の発展性

事業計画の目標は概ね達成した。しかし、2030年のSDGs達成にはほど遠い。また、日本社会における子どもの権利の普及は発展途上にあることから、継続したキャンペーン活動・啓発活動や理解の促進のためのパートナーシップが必要となる。また、一過性の取り組みではなく、継続的な賛同や支援を得て確固たる応援基盤を得ることが活動の発展と継続性を高めるため、クラウドファンディングの参加に留まらない形での市民参加の機会を提供することが重要となる。さらに、家庭教育や学校教育のあり方が欧州諸国とは文化的・制度的な背景が異なることを考慮した上で、日本社会に馴染む形での子どもの権利の普及を模索するために、運営・サポート側がこそ改めて「子どもの権利」に関する再研修を行う必要がある。

本事業は高校生という比較的早い時期に、その権利を持つことや社会の現状を変えるためのスタートラインに立つことができたユースリーダーたちにとっては貴重な始まりでした。これからの活躍が期待されるため、国際協力 NGO や市民社会組織との接点を持ち続けることができる仕組みや仕掛けをつくることにより、継続的に、相互に高めあうことのできる関係性を築きます。なお、2022年10月22日にSDGs ジャパンスカラシップ「岩佐賞」の教育の部を受賞した。このように、客観的な評価を得て報道機関と連携した普及啓発活動を続ける。継続的な活動により、日本社会における子どもの権利の本質的な尊重について浸透を目指したい。



4. 代表者又は担当者からのひとこと

本事業助成を得て、子どもの権利の普及啓発キャンペーンという新しい価値を提供し、若い世代がその価値観を牽引する機会ができた。クラウドファンディングは資金調達に留まらず、共感の輪を広げ、「賛同者」や「仲間」を増やすことを目的に実施したため、目標とした成果に繋がったことを心より嬉しく思う。

また、キャンペーン実施前と実施後に測定した高校生実行委員会の意識調査やその中で語られたストーリーを見ることで、クラウドファンディングを経験することが、プレゼンテーション能力や周囲の巻き込み力の向上、主体性や探究心、知的好奇心の向上、実践的行動力の発揮など、高校生の力が引き出されたことが伺えた。これらの力は、高校生が潜在的に持っており、その力が引き出されるプロセスに伴走することで「子ども・若者」は決して無力ではなく、大人と対等にSDGs達成に貢献する重要なアクターであることを証明できた。

さらに、本事業助成は、柔軟な計画の変更や費用対効果を意識した資金使途の変更について相談ができ、新型コロナウイルス感染症による当初の計画と実態の乖離にも縛られることがなかった。そのため、その時に効果を最大化するために必要な資金投入が可能であった。当会は、今後もユース世代とともに新しい時代に必要な価値を提供する事業を展開したい。

この度は、当会の取り組みを応援していただき誠にありがとうございました。